

分科会報告 ②-1

1. コーディネーター 宮原育子

2. テーマ

「食と観光」による地域活性化

3. 参加者数 9名

宮城県 5名 山形県 3名 福島県 1名

4. ディスカッション内容

○はじめに

本分科会では、宮城県から5名、山形県から3名、福島県から1名の計9名でテーブルを囲みました。最初に自己紹介とそれぞれの活動について、簡単に紹介いただきました。メンバーは、現職の町議会議員でありながら、フードビジネスコーディネーターや郷土料理研究者として、農家民宿をされている方、市議会議員であってパッケージの会社役員をされている方をはじめとして、駅弁の会社の役員をされている方や、生活協同組合の理事の方など食関係の職業に就かれている方が目立ちました。また、一方で、経済団体の職員の方や、まちづくり団体の役員、地域復興推進員を務めている方、電力会社の方など、日ごろから地域で活動されている方の参加もあり、分科会はスタートから活発な意見交換の場となりました。

自己紹介の中で、「いちご」が話題に上がり、福島県の相馬市、山形県の寒河江市、宮城県の亘理町や山元町では、美味しいいちごが生産されていることが分かりました。それであるならば、福島、山形、宮城3県のいちご食べ歩きツアーも面白そうという話になりました。またいちごだけでなく、お米もそれぞれの県に特徴ある品種があり、これらを食べ比べや、漬物と一緒にして3種のおにぎりのお弁当で販売してはどうか、など議論は、具体的な商品の構想に入りました。また、3県からは、伊達家ゆかりの「お姫様」、久保姫(福島)、愛姫(福島)、義姫(山形)、五郎八姫(仙台)が出ているので、お姫様をブランドにした食の商品やイベントなどを開催して、観光客に食と地域に興味を持ってもらうのはどうか、というアイデアが出され、「お姫様マルシェ」と銘打って、仙台駅のコンコースで、福島、山形、宮城3県の野菜や果物、米、お菓子などを販売できたらいいですねという事業構想まで進み、皆さんの議論が白熱しました。また、できたら、このアイデアを実現させたいという話にまで進みました。そのため、今後も連絡を取り合いながら、今回のアイデアの実現の機会を考えましょうということで、メーリングリストも作りました。

○まとめ

短い時間ではありましたが、本分科会では、皆さん次々に積極的に意見やアイデアを出されて、さながら、食と観光の企画戦略会議のような雰囲気になりました。3つの県それぞれの食の強みや、地域の文化などを一緒にして商品に作り上げ、イベントなどで来訪者にアピールすることは、とても楽しい活動であり、こうした活動を通しての地域活性化の可能性を感じることができた分科会でした。本分科会にご参加くださった皆様にお礼申し上げます。